

ミニトマトの茎えそ病（新発生）

令和5年6月、上川地方のハウス栽培のミニトマト（品種「キャロル10」）に、葉の輪紋症状および茎や葉柄のえそが認められた。また、当該ハウスではアザミウマ類が多数発生していた。エライザ法によるウイルス検出を行ったところ、キク茎えそウイルス（chrysanthemum stem necrosis virus (CSNV)）に陽性反応を示した。さらに、罹病葉から CSNV 特異的プライマーを用いて RT-PCR 法によるウイルス検出を行ったところ、特異的遺伝子の増幅が認められた。増幅した遺伝子は遺伝子配列の相同性解析を行った結果、既知の CSNV と 99%一致した。以上のことから、CSNV によるトマト茎えそ病と同定した。

本ウイルスは、国内でトマト・ミニトマトの他、ピーマン、トウガラシ、きく、トルコギキョウ、アスターで被害が確認されており、エノキグサ、チチコグサモドキなど周辺雑草にも感染する。また、伝染方法はミカンキロアザミウマによる虫媒伝染で、種子伝染、土壌伝染および管理作業による伝染はしない。

（花野技セ・上川農試・上川農業改良普及センター）



ミニトマトの茎えそ病（花野セ 佐々木 原図）